

# 大雪に伴う被害防止対策について

気象災害対策 R 7 - 7

令和 8 年 1 月 1 6 日

農林総合研究センター

気象庁によると、1月21日頃から強い寒気が流れ込み、警報級の大雪となる可能性があります。また、突風にも注意が必要です。



11月28日に発出の「冬季（12～2月）における農作物管理対策について」を参考にしながら、過去の被害を教訓として以下の点に留意の上、指導を徹底して下さい。

## 【留意事項】

- 1 作業や見回りを行う際は、安全確保を最優先に、必ず複数人で行う。
- 2 ハウスや施設等では、屋根雪の滑落を妨げないようビニール等の上に展張している遮光資材や防鳥網等を取り外す。ハウスは中柱や筋かい等で補強し、暖房施設があれば4°C以上に保つ。
- 3 降雪が激しく、ハウスの雪落としや融雪が間に合わない場合は、細心の注意を払いながら、ビニールを切断して、ハウスの倒壊を防ぐ。
- 4 果樹では、果樹棚等の施設や樹上の積雪状況に注意し、必要に応じて早急に雪下ろしを実施する。
- 5 施設栽培品目では、凍霜害を防ぐため、内張りカーテンの被覆等によりハウス内の保温に努める。また、突風に対し、ハウス内に風が吹き込まないようする等の管理を適切に行う。
- 6 畜産では、畜舎などへの道路を早めに除雪し、飼料の在庫確認と確保に努める。

低温と大雪に関する早期天候情報（北陸地方）

令和8年1月15日14時30分

新潟地方気象台 発表

北陸地方 1月21日頃から かなりの低温

かなりの低温の基準：5日間平均気温平年差  $-2.0^{\circ}\text{C}$ 以下

北陸地方 1月21日頃から 大雪

大雪の基準：5日間降雪量平年比 212%以上

北陸地方の気温は、向こう5日間程度は寒気の影響を受けにくいため平年並か高く、かなり高い日もありますが、その後は冬型の気圧配置が強まる時期があり、寒気の影響を受けやすいため低い日が多く、21日頃からはかなり低くなる見込みです。気温の変動が大きいでしょう。また、21日頃からは降雪量がかなり多くなる可能性があります。

農作物の管理や水道管の凍結等に注意するとともに、除雪などの対応に留意してください。また、今後の気象情報等に留意してください。

＜参考＞

この期間の主な地点の5日間降雪量の平年値は、以下のとおりです。

地点 平年値

輪島 11センチ

七尾 14センチ

金沢 13センチ

白山河内 38センチ